

八峰CS通信

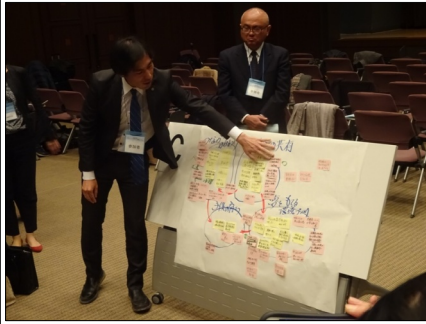
平成29年度
第 17 号
H29/12/21 文責 川尻
CSデイルカ

CS推進フォーラム（東京会場）に参加して

12月8日文科省「地域とともにある学校推進フォーラム」に参加しました。その様子を紹介します。

△ミニ熟議▽

「発言を否定しない」という原則で、自分が気づかない発想に触れる。テーマは「子供たちが未来に期待をもって夢や志を抱き歩んでいくため、どんなことを大切に、どのような取組が必要か」私のグループは岐阜県・長野県・京都府・埼玉県・熊本県から教職員・学校運営協議会会長・教育センター職員など多様な参加者で構成され、多彩な



意見が出された。

グループの意見として、「大人が生き生きする姿」「安心できる環境」「人と人とのつながり」などが大切で、「学校と地域のビジョンや情報の共有」が必要であるとした。

△意見発表▽

五百名を超える観衆の前にCSの体験を堂々と発表する大学生に感動。CSを卒業した大学生4人が意見発表をした。多くの大人と関わり「こんな事が出来る」と知る事が出来た。放課後に地域の大人と接し、愚痴を言えた。市防災訓練への参加で消防士を目指す。地域の方との茶話会で昔話を聞いたり、社会見学で大人と関わった。「自分の成長を喜んでくれる人がいる」と知り自己肯定感が育まれた。子供の頃は地域の人の関わりやすさを感じなかったが、今その大切さを実感している。

△講話▽

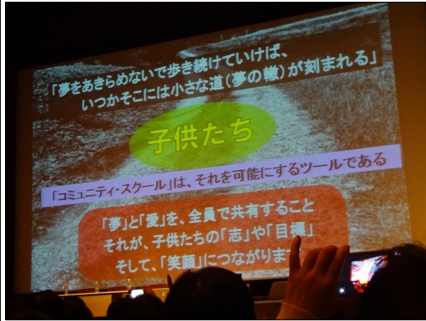
「なぜ社会に開かれた教育課程なのか？」兵庫教育大学小西哲也教授「子供が地域の大人から学ぶ 大人と一緒に学ぶ場としての学校」

学校で「豊かな人間性」や「生きる力」に関わる様々な力を育成しなければならぬが、教師だけでは教えられない。特に社会性を育むためには、様々な人との関わりが必要である。よりよい社会づくりのために地域の担い手を育てるという目標を、教育課程を介して地域と共有する必要がある。地域の大人に「おらほの学校」として教育の当事者意識をもって欲しい。

「学校は地域の教室・授業は地域の文化」というイメージの事例として、中学の英語や音楽の授業に大人も混じって学ぶ、小学の全国学テの問題を大人が解く、などの取組があり、その中で子供たちと地域の大人が関わりを深めていた。

「自分は歯車になりたい。自分が受けた恩を次の世代につなげるための。」
「志は足と出発点と心の組み合わせ。心を込めて出発点を越え先に進む。そこに【轍】ができる。」

「夢をあきらめないで歩き続けていけば、いつかそこには小さな道（夢の轍）が刻まれる」
子供たち
「コミュニティスクール」は、それを可能にするツールである
「夢」と「愛」を、全員で共有すること
それが、子供たちの「志」や「目標」
そして、「笑顔」につながる。



東山田中学校運営協議会委員でPTAの志村さん「母親として地域の目や支援を期待している。まず、今自分がやらなければ、興味が薄い保護者にもコミスクを広める。」春日市出身の石川さん

優しい気持ちで発揮し、能代支援学校の友達とゲームで仲良く交流（八森小）



秋田大学林信太郎教授から八森地区の地形を学ぶジオサイト探検（八森小）



「自分は歯車になりたい。自分が受けた恩を次の世代につなげるための。」
「志は足と出発点と心の組み合わせ。心を込めて出発点を越え先に進む。そこに【轍】ができる。」

国際教養大学とネットつながり、駒踊りについて英語で説明（八峰中）



国際教養大学の留学生と英語で交流、外国の生活に興味津々（峰浜小）

